

稲作

営農部米穀課
伊藤 善輝

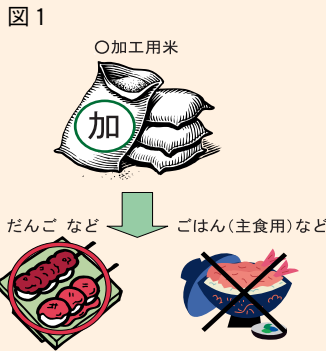


「こめ通信簿システム」による栽培履歴記帳の徹底を！

改正食糧法と米トレーサビリティ法が施行されます。

①改正食糧法の概要

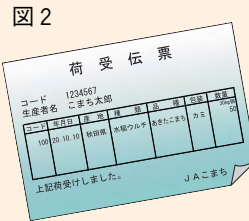
平成22年4月より、改正食糧法に基づき、いわゆる生産調整として取り組まれる加工用米や新規需要米など【用途限定米穀】の用途外使用の禁止などがルー化され、米穀の出荷・販売を行っているJAや生産者もこの規制の対象となります。(図1参照)



②米トレーサビリティ法の概要

平成22年10月より施行の米トレーサビリティ法に基づき、米・種もみの①出荷・販売、②入荷・購入、③移動、④廃棄など、その記録を3年間保存することが義務付けられます。また、米・種もみ以外に、米粉や米こうじ等、米飯類、もち、だんご、米菓

清酒、単式蒸留焼酎、みりんなども対象になります。これらの対象商品を一般消費者に販売又は提供する場合は産地情報の伝達を行う必要があります。(図2参照)



①②どちらも違反があった場合は罰則が適用となります。

「こめ通信簿システム」による栽培履歴記帳の徹底を

法令遵守と、安全・安心なお米を消費者へ販売するためにも、秋田こめ通信簿システムによる栽培履歴記帳の徹底を図ってまいりますので皆様のご協力をお願いいたします。尚、米の契約時に栽培履歴カードをお渡ししておりますのでご確認願います。また、平成21年産のシステムによる分析結果(タンパク、アミロース、総評コメント等)をお返ししておりますので、参考にして下さい。

園芸

東成瀬営農センター
係長 高橋 輝彦
(営農指導員)



枝豆の適期収穫に向けた開花観察を！

本年の枝豆は春先からの低温や、遅い降雪により作業の遅れが心配されましたが、極早生種より順次播種作業が開始されております。枝豆は品種により開花日から収穫日までの日数がほぼ一定である事が秋田県農業試験場の研究で発表されております。

中早生種の「湯上り娘」は開花日から収穫日まで約36日(例) 開花日が7月15日(例)の場合には収穫日が8月19日頃)、中晩生種の「あきた香り五葉」などは約48日(例) 開花日が7月15日の場合には収穫日が8月31日頃)と言われております。

また、秋田県産の枝豆は、実需者に非常に高い評価を受けており、県とJAが一丸となって、日本一を目指している品目です。

そこで高品質出荷と高価格販売を図るためにも、開花後の(気象状況により前後する場合があります)過熟葉の回避と、適期収穫をすることを目的に、開花日を確認する事は重要です。

確認の手順を参考に自分の圃場を観察してみましよう。

【適期収穫に向けた開花の確認手順】

- 1 開花前に、一圃場より任意に20株を選定する。(目印を付けると良いでしょう。)
- 2 選定した株のうち半分(10株)で開花が一花確認された日が開花日となる。
- 3 開花の観察を行ない別表1のデータと照らし合わせ適期収穫を行なうして下さい。

表1 主な品種別の開花から収穫までの日数

早晚	品 種	開花から収穫までの日数
極早生	グリーン75	約32日
	力錦	約32日
中早生	あづま湯あがり	約40日
	娘かみ	約36日
中 生	あぎたさやみ	約41日
	涼香	約38日
中晩生	あぎた香り五葉	約48日
	秋光	約50日
	音伝	約52日
晩 生	緑雪	約39日
	秘	約51日

秋田農試試験データより



雄勝高校生の
JA探訪編

勝 高

おがちこうこうせい
第1回～こんにちは！雄勝高校生です～

秋田県立雄勝高等学校の生徒が、高校生の目線でJAこまちを丸裸にする新企画がスタートします。

昨年から始めた「こまちの情報局」。各担当職員が、皆様に情報をお伝えしていますが、「雄勝高校生のJA探訪編」では、高校生がJAこまちの職場を訪問、職員への密着取材を敢行。「こんな仕事をしています」「こんな事を頑張っています」等の発見を皆様に【JA情報】という形で発信するとともに、金融・営農・販売・購買・福祉…と総合事業を展開するJAの職場体験をすることで、社会へ羽ばたく高校生が、自らの目標や展望、社会人としての心構えを作るきっかけとなつて欲しいと佐々木信子校長先生をはじめ、同校教諭陣のご協力の基に開始する事になりました。

第1回は、「～こんにちは！雄勝高校生です～」です。近藤大樹さん（2年生）と東海林あゆみさん（2年生）、佐々木飛都美さん（2年生）が、本店をスタートに、湯沢北支店・北部資材店・中央CE、湯沢農業倉庫を巡り、JAこまちの事業概況について説明を聞くとともに、金融・販売・購買事業の内部に突撃探訪しました。（様子は8ページ～9ページに掲載）

次回からは、雄勝高校生自らが探訪先を選択、一部署または一人の職員に密着しながら、感性豊かな高校生目線で、地域の中核産業である農業を支えるJAの情報を皆様にお届け致します。





30段に積み上げられた「米」の山に驚きつつ、温度・湿度の管理方法、初めてみる“ねずみ返し”など、大切に「米」が保管されていること。「米」の大切さについて、あらためて実感した様子です。

湯沢北支店・ 北部資材店を 訪問して



近藤大樹さん

今回の訪問で湯沢北支店さんに行ってみたことが2つあります。1つめは、店のカウンターがお客さんに見やすいかたちになっていることでした。また、支店長さんの

席にも座らせていただきました。これは貴重な体験でした。銀行のような仕事をしていることは知っていましたが、実際に訪れてみると改めて農協の仕事の幅の広さを感じることができました。2つめは、湯沢北支店の隣にある資材店です。こちらには多くの農業関係の資材や肥料などが売られていました。よく観察してみると、肥料の袋や、種芋の袋などはどれも「20kg」の表示があり統一されていることを知りました。他には鍵のかかる戸の向こう側にあった農薬も気になりました。窓には「危険」の文字が…。さらに、ひっそりとお酒が売られていたのには意外な感じでした。

湯沢北支店窓口で



実際カウンターに座ると「お客様がよく見え、サービスがしやすいだろうなあ」と感じました。

本店小会議室で



中村総務部長からJAこまちについて説明を聞きました。



です。「正味20kg」の共

湯沢農業倉庫で



紙袋を持ち上げる大樹さん

農家にとって JAは必要!

私は、今回JAこまちを訪問して、たくさんの新しいことを知ることができました。今まで、個人としてあまりJAに関わることはありませんでした。そのため、JAは、農作物を栽培したり、出荷したりという仕事だけをやっているのだろうと思っていました。実際は、農業が中心になっているけれども、いろいろなところに関係していることがわかりました。例えば福祉事業などがそれにあたります。(恥ずかしながら詳しくわかりませんが)私の家も農家なの

でJAを利用していると思います。このような農家にとって、JAは必要な仕事であり、農家もそれによって成り立っているのだと思います。JAはとても大切な仕事をしているということを改めて感じました。

今回の訪問を通して学んだことや感じたことを、今後の進路や将来を考える際に役に立てていきたいと考えています。



東海林あゆみさん



注意深く、真剣に見学しました。



佐々木 飛都美さん

組合員がらで JAがある！

今回、JAを訪問して、JAの色々な部分に分かり、勉強になりました。最初の本店での説明では、組合員がいなければJAが成り立たないことがあらためて分かりました。現在、湯沢市の特産品にしようとしているネギ・枝豆は、自分の好きな食べ物でもあるので、特産品になるように応援した

いです。

中央CEは、中が広くいろんな機械がたくさんあり、そして、米を粉すりしている場所だという事が分かり勉強になりました。湯沢農業倉庫は、湿度が70%前後で米を管理していて、昭和23年に建てられた歴史ある倉庫だという事も分かりました。普段何気なく口にしているものも、多くの人の苦勞があつてこそおいしく食べる事が出来ているんだなあと思いました。JAの事に関して、自分で分かっていると分かっていない事、分らない事がたくさんあります。今後は、農業に関わる事があれば、訪問したことを思い出して社会に役立てたいと思います。

湯沢農業倉庫で



あゆみさんが撮影した写真。こんなにたくさんのお米が1年でなくなることに驚き、「やっぱりお米は大切だ」と思いました。

中央CEで



飛都美さんが撮影した写真。中が広くいろんな機械があることに驚いたようです。

北部資材店で



大樹さんが撮影した写真。通項を発見したようです。

平成22年度

秋田県立雄勝高等学校地域連携の取り組みについて

1. 基本方針

本校の特色ある学校づくりの一環として、学校教育に地域の教育力を積極的に導入することで、生徒の多様な教育活動を推進し、社会性やコミュニケーション力の育成と地域社会の一員としての総合的な成長を促す。

2. 地域連携コーディネーターの主な役割

- ① 地元企業や行政、地域づくり協議会との緊密な協力関係を構築するとともに、連携事業の渉外を担当し、外部講師による講演依頼や授業への参加要請を行うなど、学校と地域との橋渡しの役割を担う。
- ② 各事業や行事等の取り組みを紹介し、全校生徒に参加を呼びかけるとともに、参加者の取りまとめや参加生徒への事前・事後指導（服装・整容、挨拶・言葉遣い・マナー、報告書の提出等）を行う。



地域連携コーディネーター 阿部 政任教諭

いろんな意味で「米」の重みを感じてくれました。大樹さんは「本店をはじめ、支店や中央CE、農業倉庫などで働く職員一人ひとり、そして組合員がいて、JAが成り立っている」ことを感じたそうです。